キャラクター名	プレイヤー名
マリエッタ	

ポジション	ジャンク	享年	15
メインクラス	バロック	暗示	反転
サブクラス	バロック	寵愛点	16

初期配置	煉獄
最大行動値	10

能力値	クラス	修正	合計
武装	0	0	0
変異	4	0	4
改造	0	1	1

記憶のカケラ	内容
52:【仮面】	嘘つきだったあなた。きっと誰も信じてくれない、きっと誰も信じられない。今の仲間を信じられる？信じなくちゃいけないと、わかっている。わかってはいるけど、あなたは……。
84:【おばけ】	正体不明の何かと遭遇した記憶、奇妙な音、おかしな影…不気味な光。あの時の恐怖が今は、おとぎ話のように微笑ましい。今のあなたは、かつてあなたが怯えていた存在そのものなのだから。
鳥籠	いくつもの鳥籠に、エミリアは小さな女の子を飼っていた。そのときの気分で入れる籠を変えて、あの子が歌う声に耳を澄ませる。確かにとても美しい声だ。それは納得している。でも、私はエミリアの恋人なのに。エミリアはこちらを見ようとしない。
幼い子供	私の恋人がひどく可愛がっている子供を知っている。金色の髪に海のような深い青目。まるで自身の子供のように可愛がっていた。「カナリア、あなたは本当に何の役にも立たないのね」あまりにもエミリアがあの子を構うものだから、私はついつい意地悪を言ってしまった。
ねじまき	時折、背中のねじをまいてやらないといけない。完全に止まったところを見たことはない、その前に定期的に巻いているからだ。エミリアの言葉通りに、ねじを巻いてやらなければ、動くことも出来ない。「君は意地悪を言うけれど、カナリアのことも好きだろう？」そう言ってエミリアは鍵の形をしたねじを渡してきたのだ。どうしよう。好きではない。そう思っているけれど、エミリアが言うなら、少しは仲良くしてやってもいいか。そんな風に考えるのだから、私も呆れたものだ。
守るために	エミリアが開発していたネクロマンシーが他のネクロマンサーに狙われたという。特にカナリアの力をほしがっているらしい。「守らないと」そう、エミリアは言った。「トリカゴヒメの中でずっと過ごしていれば、カナリアはきっと無事だろう」私は、エミリアの恋人。そして、サヴァントだ。あの人に愛され続けたカナリアのことは、正直好きではないけれど。「さあ、一緒に来てくれるね、マリエッタ」私はエミリアの手を取った。

未練

対象	種類	狂気点		発狂時ペナルティ
たからもの	依存	3	①②③④⑤	パーツとして所持。破壊で狂気点+1
エミリア	執着	3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	
		3	①②③④⑤	

マニューバ

タイプ	損傷	名前	使用	タイミング	コスト	射程	効果
頭		のうみそ		オート			2
頭		めだま		オート			1
頭		あご		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		こぶし		アクション	2	0	肉弾攻撃 1
腕		うで		ジャッジ	1	0	支援 1
腕		かた		アクション	4	自身	移動 1
胴		せぼね		アクション	1	自身	次カウントで使うマニューバ 1 つのコスト-1
胴		はらわた		オート			
胴		はらわた		オート			
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1
脚		ほね		アクション	3	自身	移動 1
脚		あし		ジャッジ	1	0	妨害 1
ポジション		半壊		オート	なし	自身	バトルパートにおけるターン終了時、たからものを破損した時、いずれも狂気点の増加を受けない。
メインクラス		怪力		オート	なし	自身	肉弾・白兵攻撃におけるダメージ＋1
メインクラス		歪極		オート	なし	自身	このスキルを習得した際、レベル3変異パーツを追加で一つ獲得する。このパーツは強化値に縛られず、修復することも可能である。
サブクラス		業躯		オート	なし	自身	バトルパート終了時、望むパーツをニつ修復してよい。
胴		やぶれひまく		ダメージ	0	自身	防御2
腕		くされじる		アクション	3	0〜1	肉弾攻撃+爆発+転倒
胴		どろどろ		ダメージ	1	0〜1	自身がダメージを受けた歳、そのダメージを与えた対象にのみ使用可能。肉弾攻撃2。
頭		けもみみ		オート	なし	自身	最大行動値1。このパーツで行動判定で使用した際。大失敗してもこのパーツは破損しない。
脚		しっぽ		オート	なし	自身	最大行動値＋1
腕		シザーハンズ		オート	2	0	肉弾攻撃1+切断
脚		写真		オート	なし	なし	